

震災復興、新型コロナ感染対策全力で取り組み、 身近なことにも変わらず気を配って参ります。



あの東日本大震災より9年の節目を迎えました。
たとえ9年の歳月が過ぎても、大切な存在を一瞬にして失った心の痛みが癒える
ことはありません。

被災された方々が抱える悩みや課題は時を経るごとに変化し個別化、複雑化し
ます。進展の鍵は“一人”に焦点を当てた支援が不可欠であるとこれまでの経験か
ら実感しています。これからもより一層寄り添ってまいります。

現在世界的に猛威を振るう新型コロナウイルスの感染は、私達の仙台市にも多
大な影響を及ぼしており、開催予定だった小中学校の卒業式の縮小や追悼行事の
中止など、多岐に渡っており今後の推移には細心の注意を払ってまいります。

本年(令和2年)の第1回定例会が2月7日から始まり3月12日に終了しました。
18日には一般質問に立たせて頂き、男性の育児休暇の推進、「やさしい日本語」の
普及等について、また予算等審査特別委員会では若者の発想を活かしたまちづく
りや公園遊具整備等について、質疑させて頂きました(詳細は中面)。



今後もこの苦境を乗り越え安らかな暮らし
を取り戻すため全力を尽くしてまいります。

仙台市議会議員
佐々木まゆみ

佐々木まゆみプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。現在3期目。

【仙台市議会】

議会運営委員会副委員長、総務財政委員会副委員長、
スポーツ振興調査特別委員会委員。



男性の育児休暇、重度訪問介護制度、市営住宅の風呂設備など、身近な問題にスポットを当てる取り組みを進める。

令和2年 第1回定例会 一般質問 2月18日
予算等審査特別委員会(土木費) 3月4日
(市民費) 3月18日



令和2年 第1回定例会 一般質問

【佐々木まゆみ議員】本市における男性の育児参加についての状況はどうか。

【総務局長】平成30年度の育児休暇取得率は15.4%と「職場で取り組む子育て推進プログラム」の目標を1年早く達成。次年度から始まる新たなプログラムにおいても、より高い目標を設定し、対象となる職員やその上司に対する制度や育児参加の意義についての周知を強化するなど、引き続き男性職員が育児休業を取得しやすい職場環境づくりを進めていく。

【佐々木まゆみ議員】新年度からスタートする「仙台市すこやか子育てプラン」での、男性の育児休暇を有意義なものにするための取組みについての所見を伺う。

【市長】新「子育てプラン」において「仕事と子育ての両立支援の促進」を柱のひとつに掲げている。男女ともに育児に関わり、子育ての喜びを分かち合える環境づくりを進めてまいりたい。

【佐々木まゆみ議員】「重度訪問介護」の制度周知と適正利用について。

重度訪問介護は、障がい支援区分が区分4以上での重度の肢体不自由、知的障がい、精神障がいにより、行動上著しい困難を有する障がい者で、常時介護を要する方などが対象となっている。8時間勤務のヘルパー3人で1日24時間連続して使うことを想定してつくられた制度だ。重度訪問介護は、身体介護とは違い、当事者に呼ばれるまで、すぐそばに座って待つ見守り待機もヘルパーの仕事となっている。本市の重度訪問介護対象者は身体では753人、知的では560人、精神では8人で1321人。そのうち重度訪問介護を利用されている方は、令和元年11月現在、56人しかいない。制度を知らず、長時間の介護に苦しんでいる方も多いのではないかと。

そこで、利用可能な対象者や関わりのある保健所、相談支援事業所、地域包括支援センター、介護事業所及びケアマネジャー、医療機関など関係機関への周知と連携が必要と考えるが、現状と取組みについて伺う。

【健康福祉局長】これまで本市ホームページや障がい保険福祉の案内冊子により利用者の皆さんへ情報提供してきた。また重度障がい者の在宅生活を支えるには、適切なサービス調整が必要なことから、障がい者相談支援事業所や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等が参加する、各区の障がい者自立支援協議会において、重度訪問介護を含む、在宅福祉サービスの活用方法に関する情報共有やケース検討を行っている。

在宅福祉サービスやその効果的な活用方法について、相談支援専門員を始めとする支援者等への周知を通じて、重度訪問介護の利用が可能な方々への情報提供を図っていく。

【佐々木まゆみ議員】市営住宅における風呂設備の設置推進について。

令和元年度の設置状況、来年度の設置見込みはどうか。さらに新年度の募集から障がいをお持ちの世帯への配慮した募集も行うなど、積極的に風呂設備の設置について推進していただきたい。

【都市整備局長】老朽化した風呂設備の更新については、今年度の実績は384世帯の希望に対し、年度末までに172世帯への設置を進めている。また、新年度においては400世帯への設置を予定している。

新年度の募集方法については、これまでの多数回落選世帯に対する抽選優遇に加え、障がいをお持ちの方がおられる世帯に対しても、優遇措置を講じることとしており、より配慮が必要な世帯に対して、早期の風呂設備更新を進め、居住環境の向上が図られるよう努めていく。

予算等審査特別委員会

【佐々木まゆみ議員】公園整備について。

本市が所管する公園の日常点検はどのような頻度で、どのような着眼点で実施しているのか。また、遊具点検・安全確保の現状と課題について所見を伺う。

【公園課長】公園の日常点検は、年4回程度の職員パトロールを基本とし、遊具、ベンチ、四阿(あずまや)、トイレ等の公園施設の不具合や落書き等の有無、樹木の状態等を確認し

ている他、公園愛護協力会にもご協力を頂いている。
また遊具の点検は、年1回専門業者による点検を夏休み前までに実施し安全確保に努めており、年々老朽化が進みその対策が課題である。

【佐々木まゆみ議員】公園・広場ごとに「ドッグラン専用」など特徴を持たせてもよいと思うがどうか。

【公園課長】本市では、公園を有効活用し都市の魅力を向上させるため、仙台市公園マネジメント方針に基づき公園作りに取り組んでいる。

新たなニーズに対応した特徴ある公園整備についても、この方針に沿って検討していく。

【佐々木まゆみ議員】インクルーシブ公園について。

インクルーシブとは、ユニバーサルと似た使い方をされているが、一緒にとか、個々ではなく包含されているという考え方で、いろんな世代が入り混じり合って安全に遊ぶことができ、さらには「違い」を自然と理解し合える工夫がされている遊具が整備されている公園のことである。

東京都は、遊具がある広場を改修し、シート型や円盤型のブランコ、車いすのまま中に入れる複合遊具、目や耳が不自由でも音や感触を楽しめる楽器遊具などを設置し、地面はゴムチップで舗装されているので、車いすや歩行器での移動もしやすく、体の障がいを持つ子どもが地面に手やひざについて自力で移動しても汚れにくく、囲いも設けられているので、発達障がいの特性などで衝動的に飛び出してってしまう子どもも安心して遊ぶことができるように整備されており、日光に弱いお子様向けに日よけを設けるなど、更に整備の拡充を進めている。

インクルーシブ公園の認識と評価についての所見はどうか。また、障がいの有無に関わらず、すべての子ども達が、公園で共に遊び、学ぶ機会を積極的に整備すべきと考えるがどうか。

【建設局長】本市では、これまでもバリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した公園整備を行ってきたが、障がいの有無にかかわらず、すべての子供達は、共に遊び、学ぶという視点でのインクルーシブ公園について、先行事例の情報収集を行うなど、今後研究していく。

【佐々木まゆみ議員】若者の発想を生かしたまちづくりについて。

市長は施政方針の中で、若者の視点を施策に活かし、創造の文化が息づくまちづくりを進めるとし、具体的に「(仮称)まちづくり若者会議」として、学生などを対象としたワークショップを開催するほか、これまで実施してきた市民協働事業提案制度について新たに若者を対象とする募集枠を設け、若

者の感性やアイデアを積極的に取り入れる環境づくりに取り組む」と述べられている。現行の制度と異なる点、事業内容、予算も含め伺う。

【市民協働推進課長】まず、審査・採択から事業実施までの期間について、現行制度では2ヶ年度にまたぐところを、若者版では単年度内に募集し審査を行い、事業実施まで行う。次に市の負担金額は現行では上限300万円だが、若者版では30万円程度に設定する一方、過去の活動実績や事業費の一部負担を求めない等要件を緩和する。予算額としては市民協働事業提案制度全体に係る事業予算1千796万8千円余のうち、若者版事業への負担金として計100万円を充てる。

【佐々木まゆみ議員】新年度、本市としてもまちづくりや課題解決に取り組む活動への参加を促進するため、若者会議やワークショップ等を開催するとしている。参加対象、人数等、開催概要、また周知をどのようにされるのか。

【市民協働推進課長】新年度の(仮称)まちづくり若者会議については、仙台の街づくりについて、若者から身近な気づきや自由な発想などのアイデアを引き出すために、参加者ができるだけ多くの意見交換ができるよう、ワークショップを実施するもの。参加者の募集にあたっては、市内に居住または通勤・通学する、概ね18歳から30歳未満の方を30名程度公募で募集するが、様々な大学や教育機関、若手社会人等に幅広く周知を図ることで、多様な若者に参加いただけるよう努めていく。

【佐々木まゆみ議員】より多くの若者が会議に興味を持ち参加しやすい会議となること、そして参加してくれた若者との関係を継続していくことが大事であると思うがどうか。

【市長】「学都・仙台」にあふれる若者の感性とエネルギーは、都市の活力を生み出す大きなポテンシャルであり、本市特有の強みと認識している。新年度は、新たに開始する取り組みを始め、様々な機会を捉えて若者の視点を施策に取り込むことで若者の力を活かし、新たな文化を創造していけるようなまちづくりを進めて参りたい。

その他、「やさしい日本語」「介護福祉関連のホームページをよりわかりやすく」など質問した。



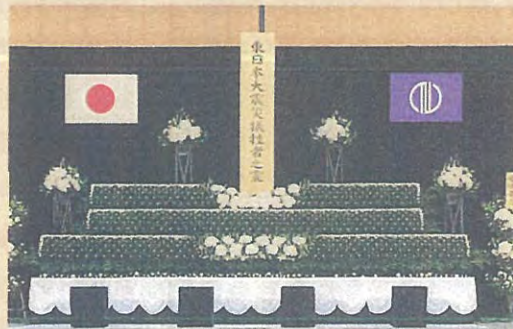
郡仙台市長に新型コロナウイルス感染対策の要望書を提出



仙台・福島・山形連携推進協議会に出席



美容組合新年祝賀会に参加



3.11東日本大震災追悼式に参列



もしコロナウイルス感染の疑いを感じたら 「まずはコールセンターにお電話ください」

県と仙台市では、新型コロナウイルス感染症に関する健康電話相談窓口(コールセンター)を設置しています。帰国者・接触者相談センターへの相談についても、コールセンターでお話を伺い、必要な場合にコールセンターからおつなぎしますので、右記電話番号にご連絡ください。

コールセンター
TEL 022-211-3883
TEL 022-211-2882
受付時間 24時間対応

融資制度や経営に関する困りごとがあれば 「お気軽に御相談ください」

宮城県より…中小企業支援室では、国内外において新型コロナウイルス感染症が拡大していることに伴い、事業者向けに経営や資金繰り等に関する相談窓口を設置しました。

県中小企業支援室 経営支援班
TEL 022-211-2742
午前8時30分から午後5時まで
(土日・祝日を除く)